

週刊 学びのコミュニティ

第41号

平成22年2月3日発行



授業紹介No.6

第6弾は共創型授業『名著購読—自分探しと現代社会—』です。

(火曜日7・8時限/担当：大橋 眞教授・中恵真理子特任助教・後藤壽夫非常勤講師)

この授業も GP の取り組みとして、社会人ボランティアに参加していただき、成立している授業である。

授業名は「自分探しと現代社会」である。これは大学生つまり青年期の課題とされていたことが、現代社会においては中高齢者であっても、「本当の自分とはなんだろう」という問いから誰もが逃れられない状況になっている、そういう現象をテーマとして扱いたかったことによる。

これまで扱ったテキストを紹介すると、4回目までは大庭健の『私という迷宮』から「自分探し」という個人的なものとされる営みが現代社会の特徴と深く

結びついたものであることについて、ディスカッションした。そこでは「本当の自分を見つけ出すこと」成熟するといったことが困難な状況が受講生から各々の体験を通して語られた。

5・6回目には「ローマの休日」を鑑賞しディスカッションした。皇女という特殊な階級のドラマであるが、1日の自分探しから役割取得を経て、自分の役割を果たしていった過程を、学生、社会人の双方から感想を述べあってもらった。社会人の方からは30年ほど前までの普通の生き方、生き方のモデルがあった時代を

振り返りつつ、私たち社会人も定年後の自分探しを行っているというような意見が出された。学生は、皇女が一日間ではあるが役割を取り払って彼女なりの冒険をしたことに注目し、日常から離れて自分というものを考えてみることも大切なのではないかというような意見が出された。

そのあと7回目は中間レポートの発表会をし、8～11回目は、人生のモデル設計がな



りたたなくなった社会の事例研究を行ったエーリッヒ・フロムの『自由からの逃走』をもとにディスカッションをした。

この授業では、教養というものが生涯学習の入り口であることをメッセージとして学生たちに伝えたかった。すなわち縦軸に自分史、横軸に現代社会を置き、それらを改めて振り

返ることで、さまざまな課題をみつけ、建設的に解決していこうという試みを、世代をこえた仲間同士でやっていくこと、これがこの授業の学びの成果として目指しているものである。

(文責：中恵真理子)

～編集後記～

今日は節分。この日は豆撒きをして、邪気を追い払い、一年の無病息災を願います。この時に使用する豆ですが、私が生まれ育った関東ではここ徳島と同じように大豆を撒きますが、一時住んでいた南九州では落花生を撒いていて、驚いたことがありました。撒いた後のお掃除が楽なように、また、撒いた後も食べられるようにとの考えからとか。明日から暦の上では春になりますが、実際には最も寒い時節です。みなさまどうぞご自愛ください。(境)